

名張市教育振興基本計画

**第二次名張市子ども教育ビジョン
平成29年度進捗状況報告書**

平成30年 月

名張市教育委員会

目次

はじめに	1
基本目標 1 確かな学力の向上	3
(1) 学力の向上	
(2) 特別支援教育の推進	
(3) キャリア教育の充実	
(4) 情報教育の推進と ICT の活用	
(5) 就学前教育の充実	
(6) グローバル人材の育成	
基本目標 2 豊かな人間性の醸成	7
(1) 人権・同和教育、道徳教育の推進	
(2) ふるさと学習「なばり学」の推進	
(3) 持続可能な開発のための教育（ESD）の推進	
(4) 読書活動・文化芸術活動の推進	
基本目標 3 健やかな体の育成	11
(1) 健康教育の推進	
(2) 体力向上に向けた取組の推進	
(3) 食育の推進	
基本目標 4 活力ある学校づくり	14
(1) 教職員が働きやすい環境づくり	
(2) 学校の組織力の向上	
(3) 教職員の指導力の向上	
基本目標 5 安全で安心な教育環境の整備	17
(1) 子どもの安全・安心の確保	
(2) いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり	
(3) 居心地の良い集団づくり	
(4) 学校の規模・配置の適正化の推進	
基本目標 6 家庭・地域との協働の推進	21
(1) 家庭の教育力の向上	
(2) 地域の教育力の向上	

はじめに

1 第二次名張市子ども教育ビジョン

教育委員会では、「夢をはぐくみ心豊かでいきいきと輝く『ばりっ子』」を、めざす子ども像に掲げ、教育振興と新たな教育課題を解決するため、平成22年10月に名張市教育振興基本計画「名張市子ども教育ビジョン」を策定しました。

第二次名張市子ども教育ビジョン（以下、「本計画」という。）は、子どもを取り巻く教育環境が激しく変化していく中において、「名張市子ども教育ビジョン」をより確実な成果につなげていくため、10年先を見据えた長期的な視点に立ち作成しました。計画の期間は、市総合計画との整合を図り、2016（平成28）年度から2025（平成37）年度までの10年間。「主な取組」につきましては、2016（平成28）年度から2020（平成32）年度までの5年間としています。

本計画は、名張市総合計画『新・理想郷プラン』に示す教育分野の施策を具体化する行動計画として位置付け、「豊かな自然と文化に包まれて誰もが元気で幸せに暮らせるまち 名張」の実現に向けて、名張市の教育の方針や取組を体系的に整理し、市民総ぐるみで子どもの教育環境を整える計画と位置付けています。

2 進捗状況

この報告書では、本計画に掲げる施策の2017（平成29）年度、第2年次となる進捗状況や取組内容、成果と今後の取組の方向性について表記しました。

全30の成果指標・活動指標の進捗率の平均は46.0%で、昨年度進捗率の平均36.7%と比較し、9.3ポイント上昇しております。内訳は、昨年度に引き続き「算数の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた児童の割合（小学生）」、「学級満足度調査による満足群にいる児童生徒の割合」、「学校生活支援ボランティアの登録者数」、の3つの指標の進捗率は100%で推移し、新たに、「国語の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた児童の割合（小学生）（中学生）」「全国体力・運動能力、運動習慣調査による総合評価（小5男子）」の3つの指標の進捗率が100%に達しました。しかしながら、9つの指標については進捗率は0%で、そのうち、「数学の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた生徒の割合（中学生）」「平日、学校の授業時間以外に『1日当たり30分以上の読書をしている』生徒（中学生）」「今、住んでいる地域の行事に参加している児童生徒（小学生）（中学生）」「教育センターで開催した研修講座のアンケートで『満足している』と回答した参加者の割合」の5つの指標については、昨年度に引き続き、平成26年度実績値を下回るという結果でした。

3 成果と課題

本計画の2年次の成果として、学習意欲の向上があげられます。これまで、取り組んできた「学力向上三本の矢」が各学校に浸透し、①めあてと振り返りのある授業、②日常的な言語活動の充実については、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果を見ても、前年度に比べて伸びが見られました。成果指標としております「国語の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた児童生徒の割合（小学6年生）（中学3年生）」「算数の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた児童生徒の割合（小学6年生）」の実績値が平成32年度の目標値を超えたことも成果として見ることができます。

教育センターでは、専門的な知識・経験を有するスクール・ソーシャル・ワーカーや、教育相談員、臨床心理士等が、より適切な支援ができるよう相談機能のさらなる充実を図るとともに、教職員の授業力アップや経験年数等に応じた研修、学校運営を牽引し、マネジメントする人材の育成研修などを充実するとともに、保護者のニーズに応じた研修を実施してまいりました。しかしながら、成果指標の研修講座のアンケートで「A（満足している）」と回答した参加者の割合は平成26年度の実績値より、7.2ポイント減少していることから、引き続き、参加者のニーズの把握に努めるとともに、生活面や学習面で困難やつまづきを感じている子どもへの支援、ユニバーサルデザインの視点や、アクティブ・ラーニングの導入による授業改善、学習評価等、教職員向けの研修をより充実してまいります。

市内の学校施設の耐震化につきましては、すべて完了いたしました。引き続き教育環境の向上に向けた学校施設の整備を進めております。平成29年度は、小中学校の教室に空調設備の設置に向けた設計事務に着手いたしました。

また、本市の芸術文化活動の拠点となる青少年センター（ads ホール）は、施設設備の一層の安全・安心と利便性の向上を目指した、吊天井落下防止対策工事及び音響設備の改修工事が完了いたしました。今後も、指定管理者との連携を密にして、多くの市民の皆様にご利用していただけるよう、新たな事業展開を図ります。

さらに、4つの重点取組の一つの名張版コミュニティ・スクールの創設については、昨年度まで研究取組校であったつつじが丘小学校と南中学校が平成29年4月に学校運営協議会設置校（コミュニティ・スクール）となりました。小中一貫教育の推進については、学校だけでなく保護者や地域との連携、協働及び関係機関との連携を図るとともに、中学校区での小中連携、小小連携をより一層深め、小中一貫教育の導入に向けた取組を進めるため、小中一貫教育リーフレット「名張市がめざすコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」を作成し、全家庭、全教職員等に配付しました。引き続き、平成32年度には、市内全中学校区で小中一貫教育の導入ができるよう事業推進が必要です。

基本目標1 確かな学力の向上

担当室 学校教育室・教育センター・図書館
教育総務室・〔保育幼稚園室〕

1. めざす姿

学校では、子どもの学ぶ意欲が引き出され、発達や理解度に応じたきめ細やかな指導が行われています。保育所(園)・幼稚園・小中学校等の連携が強化され、一人ひとりの子どもの学力にかかる課題を共有し、その解決に向けた指導方法の工夫と改善が図られています。子どもは、夢の実現に向けて、学力の基礎・基本を身に付け、自ら学び、考え、行動し、よりよく問題を解決する力を身に付けています。

2. 主な取組

- (1) 学力の向上
- (2) 特別支援教育の推進
- (3) キャリア教育の充実
- (4) 情報教育の推進とICTの活用
- (5) 就学前教育の充実
- (6) グローバル人材の育成

3. 進捗状況

進捗率 = (H29実績値 - H26現状値) / (H32目標値 - H26現状値)

成果指標	現状値(H26)		H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
	国語・算数(数学)の授業が「よくわかる」、「どちらかといえばわかる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	国語	84.0%	84.1%	88.6%			87.0%
算数			77.3%	83.3%	88.0%			83.0%	100.0%
中学生		国語	71.5%	73.3%	80.6%			74.0%	100.0%
		数学	83.3%	81.0%	81.5%			85.0%	0.0%

活動指標	現状値(H26)		H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
	通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の指導計画を保護者の同意のもとに作成している割合	小学生	14.3%	20.4%	25.0%				30.0%
中学生		0.0%	2.2%	2.3%				8.0%	28.8%
平日、学校の授業時間以外に「1日当たり30分以上の読書をしている」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	34.6%	35.8%	36.4%				37.0%	75.0%
	中学生	28.9%	21.0%	26.2%				31.0%	0.0%

4. 取組内容(平成29年4月～平成30年3月)

(1) 学力の向上

- ・全国学力・学習状況調査(小6・中3対象)を実施しました。(年間1回)
- ・名張市「学力・体力」調査活用検討委員会を実施しました。(年間4回)
- ・名張市「学習・生活アンケート」(小4・中1対象)を実施しました。(年間1回)
- ・名張市学力向上実践交流会を実施しました。(年間1回)
- ・市立図書館による学校図書館訪問を実施しました。(年間28回)
- ・市立図書館から学校図書館への団体貸出を行いました。(14校、6119冊)
- ・児童の市立図書館見学を受け入れました。(5校)

- ・生徒の市立図書館での職場体験を受け入れました。(5校)
- ・「魅力ある学校づくり」をベースにして、「学力向上3本の矢」の取組を継続しながら、平成29年3月に告示された新学習指導要領も見据え、「主体的・対話的で深い学び」という新たな授業改善の視点も加え、各学校において学力向上の取組を進めました。
- ・次期学習指導要領の完全実施に向け、外国語教育や道徳教育等における授業づくりについて学ぶ研修講座を実施し、教員の授業力向上を図ることで学力向上を図る取組を行いました。また、次期学習指導要領がめざす授業づくりの方向性である「主体的・対話的で深い学び」に焦点を当てた研修講座を実施しました。
- ・特別支援教育や授業のユニバーサルデザイン化に焦点を当て、すべての子どもの学力の底上げにより、学力向上を図る研修講座を実施しました。

(2) 特別支援教育の推進

- ・特別支援教育コーディネーター連絡会で、「通常学級に在籍する児童生徒に対する個別の指導計画を活用した支援」に関する研修会・事例検討会・情報交換会を行い(年間5回)、各学校における校内支援体制の充実を図りました。

(3) キャリア教育の充実

- ・小中一貫教育のモデル校において、出前授業や乗り入れ授業等を行い、小・中学校のスムーズな接続に向けて交流を深めました。
- ・将来に向けて、自分の進路を切り拓く力をつけるため、地域の企業や商工会議所の協力を得て、市内5中学校で職場体験学習を実施しました。3年生(赤目中学校のみ2年生)で3日間実施。

(4) 情報教育の推進とICT

- ・情報教育推進委員会を開催し、ICT機器(電子黒板、大型テレビ等)活用した有効な指導や、情報モラル教育やプログラミング教育について研修し、各校の取組の情報共有をしました(年間2回)。情報モラル教育は、各校で効果的に学習を進めるとともに、保護者に対して家庭における適切なメディア視聴のための啓発を実施しました。

(5) 就学前教育の充実

- ・「幼児教育アドバイザー」を2名配置し、全ての幼稚園・保育所(園)・認定こども園を訪問しました。アドバイザーは、各園で、小学校への円滑な接続を見据えた保育について、指導助言を行いました。
- ・「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム(試行版)実践事例集」を作成し、市内の幼稚園・保育所(園)・認定こども園の教員・職員、小学校教員、市教育委員会及び福祉子ども部の関係者等に配布しました。
- ・研修会や幼稚園公開保育・小学校公開授業を実施し、幼児教育推進に係る教職員の研修の充実を図りました。

(6) グローバル人材の育成

- ・教員の英語指導力の向上をめざして、英語教育推進研修(小学校)を受講した「英語教育中核教員」が校内研修を実施しました(3年計画の3年目:5校)。教職員に対して小学校新学習指導要領移行期間の学習内容周知のための研修を行いました。小中一貫教育カリキュラムを編成し、小中学校の教職員間で義務教育9年間でめざす子どもの姿の共有を図りました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1)学力の向上

- ・全国学力・学習状況調査の実施を受けて、早期からの自校採点や結果分析による強み・弱みの把握、検証をふまえた授業改善等に、各学校において取り組みました。
- ・「学力向上三本の矢」の取組が各学校に浸透し、①めあてと振り返りのある授業、②日常的な言語活動の充実については、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果を見ても、前年度に比べて伸びが見られました。一方で、③充実した家庭学習については、小・中学校ともに全国平均に比べ家庭学習時間が短い傾向にあり、学力の定着に向けても家庭と連携した取組が必要であることから、「みえの学力向上県民運動」に係るチェックシートを活用し、すべての学校において年3回の集中取組を行いました。
- ・「授業の内容がよくわかる」という質問に対する肯定的な回答は小中学校ともに昨年度よりも増加し、80%を超えていますが、その時“わかる”だけでなく、時間がたっても“できる”ように定着を図るための取組の強化が必要です。中学校では、落ち着いた学習環境、徹底した学習規律、親和的な人間関係の中での学習が成果に結びついています。魅力ある学校づくり(心の居場所づくり、絆づくり)の取組を小中学校においてより一層進めます。今後は、習熟度別学習の導入も含め、中学校数学における少人数指導のあり方とともに、わかる授業づくりをめざしたより効果的な取組を研究していきます。
- ・学力向上実践交流会では、全国学力・学習状況調査において成果の見られた学校や学校体制で学力向上の取組を進めた学校の具体的な実践報告や中学校ブロック別の交流等を行い、学力向上の取組について各学校が学び合う機会となりました。
- ・活動指標である「平日、学校の授業時間以外に1日当たり30分以上の読書をしている児童生徒の割合」(中学生)が平成26年度の実績値を下回り進捗率が0%となりました。しかし、平成28年度と比較し、5.2ポイントの上昇がみられています。この要因として、学校司書の授業支援の取組や教育センターにおける研修講座の工夫が挙げられます。平成29年度は、各校の図書館教育担当者を対象に、参加者同士で本を紹介し合い、もっと読みたいと思う本を投票で決める「ビブリオバトル」の研修講座を実施しました。研修講座では、中学生を対象に講師の示範授業を実施し、その後、講義をいただきました。本研修を受け、「ビブリオバトル」を実施する学校も見られ、児童生徒の読書に対する興味関心を高める取組を推進してきました。家庭での読書量を増やすために、ファミリー読書を保護者へ積極的に周知してきています。今後も、児童生徒の読書に関する興味関心を高める取組を進めます。
- ・市立図書館による学校図書館への支援として、学校図書館訪問や学校図書館への団体貸出、施設見学の受け入れを学校と連携を密にしながら引き続き実施するとともに、学校との連携のもと、第三次子ども読書活動推進計画に基づき、児童生徒の成長や学習の進捗に適した書籍等の資料の収集を行い、きめ細かな読書相談を実施し適切な資料の提供することにより、子どもの意欲の向上につながる読書活動を推進していきます。

(2)特別支援教育の推進

- ・通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、保護者と連携しながら個別の指導計画を活用して支援を進めている事例は増加してきています。研修会・事例検討会を通して、「どの子にも分かりやすく、どの子も安心して取り組める授業づくり」や「通常の学級における個別の支援」について、教員のさらなるスキルアップを図るとともに、巡回指導員等を活用し、校内支援の充実を図る必要があります。

(3) キャリア教育の充実

- ・小学校・中学校といった校種を越えて、児童生徒と交流することにより、子どもの実態把握や自校での実践の見直しにもつながり、中学校区で義務教育9年間を見据えた系統的な指導を行うことが期待されます。
- ・生徒数が減っている一方で、受け入れ可能な事業所も減る傾向にあります。「職場体験学習実行委員会」にて、商工会議所や商工経済室との連携を密にし、新規事業所の開拓が必要です。

(4) 情報教育の推進とICT

- ・情報モラル教育は、各校の年間計画に位置づけ、計画的に実施しています。(全小中学校)
- ・市内小中学校の現状は、教育用コンピュータ、電子黒板、実物投影機及び無線LAN整備等、国の第2期教育基本計画の標準を下回っていることから、整備費用の財源を確保していく必要があります。また、小学校新学習指導要領では、各教科でプログラミング教育が導入されることもあり、普通教室での情報端末の利用が必要になってきます。そのような状況の中、わかりやすい授業や、プログラミング教育の研修のために教職員は、限られたICT機器を最大限利用しています。平成29年度には、2回の情報教育推進委員会を実施し、研修を進めるとともに、プログラミング教育推進教員を中心とした20名ほどで構成される自主研修会を支援しました。今後も研修等では、効果的なICT活用、プログラミング教育についての研究を進めていきます。
- ・平成32年度からの新学習指導要領実施に向けて、教育の情報化を進めていく必要があります。特に小学校ではプログラミング教育が導入されることもあり、普通教室での情報端末の活用が必要になってきます。
- ・平成29年度には、各校の情報教育推進委員を中心に情報モラル教育実践を記録として残し、実践集としてまとめました。家庭への啓発については、授業参観やPTA行事等に合わせ、小学校高学年、中学校1年生を中心に各学校で取り組みました。高度な情報化社会の中、今後も引き続き情報モラル教育を効果的に実施していくとともに、家庭での適切なメディア視聴のために啓発を続けていく必要があります。

(5) 就学前教育の充実

- ・幼児教育アドバイザー2名による保・幼・小の巡回により、幼稚園・保育所(園)の保育士・教員が、幼児期教育と小学校教育の円滑な接続を意識して保育・教育を行うことができるようになってきました。
- ・保育士・幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭がともに学ぶ研修会を実施することにより、幼児教育・保育と学校教育の双方の視点で実践を考えることができ、幼・保・小での連携した取組につなげることができました。
- ・今後は、モデル園で研究を進めてきた「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実践を市内各園に広げるとともに、カリキュラム完成版を作成します。また、教職員研修を更に充実させ、幼児期教育と小学校教育の円滑な接続を実現する取組を広げていく必要があります。

(6) グローバル人材の育成

- ・担当者会において、移行期のカリキュラム例を示しながら、円滑な本格実施に向けた各校での取組を支援しています。今後も英語教育の早期化、教科化が盛り込まれた新学習指導要領の円滑な実施に向けて、教職員に対して移行期の英語教育の内容の周知と研修を行う必要があります。

基本目標2 豊かな人間性の醸成

担当室 学校教育室・教育センター・
文化生涯学習室・図書館
〔人権・男女共同参画室〕

1. めざす姿

子どもは、その年齢に応じた、生命や人権を尊重する態度、公共心や規範意識、他人を思いやる心、感動する心が育まれています。
また、子どもは、日常的に読書に親しむとともに、郷土の自然や文化、歴史に親しみ、郷土を愛し、郷土を誇りに思う心が育まれています。

2. 主な取組

- (1) 人権・同和教育、道徳教育の推進
- (2) ふるさと学習「なばり学」の推進
- (3) 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進
- (4) 読書活動・文化芸術活動の推進

3. 進捗状況

進捗率 = (H29実績値 - H28現状値) / (H32目標値 - H28現状値)

成果指標	現状値(H28)	H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
人が困っているときは、進んで助けていますかという質問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	40.3%	40.8%				42.0%	29.4%
	中学生	39.0%	36.6%				41.0%	0.0%

※全国学力・学習状況調査において、前回設定の質問が削除されたため、成果指標を変更するとともに、平成28年度を現状値とした新たな目標値を設定しました。

進捗率 = (H29実績値 - H26現状値) / (H32目標値 - H26現状値)

活動指標	現状値(H26)	H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
今、住んでいる地域の行事に参加していますかという質問に「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	66.2%	66.1%	61.1%			68.0%	0.0%
	中学生	45.1%	44.5%	32.9%			47.0%	0.0%
平日、学校の授業時間以外に「1日当たり30分以上の読書をしている」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	34.6%	35.8%	36.4%			37.0%	75.0%
	中学生	28.9%	21.0%	26.2%			31.0%	0.0%

4. 取組内容(平成29年4月～平成30年3月)

(1) 人権・同和教育、道徳教育の推進

- ・学校人権・同和教育推進計画に基づいた各校・園における推進計画を策定し、その推進を図りました。
- ・学校人権・同和教育推進委員会を開催しました。(年間6回)
- ・各中学校区別研修会等を実施しました。(年間2～3回/各中学校区)
- ・部落問題を考える小学生のつどい(中学校区別)を開催しました。(年間1回/各中学校区)
- ・中学生ヒューマンライツ(人権集会)を開催しました。(年間1回+実行委員会5回)
- ・人権・同和教育担当者研修会を開催しました。(年間1回)

(2) ふるさと学習「なばり学」の推進

- ・ふるさと学習「なばり学」学習資料集編集委員会を3回開催し、学習資料集編集方針や進捗状況の確認を行いました。
- ・各小中学校より担当教職員を招集して、ふるさと学習「なばり学」担当者会を3回開催し、執筆者とともに学習資料集の表現の検討及び原稿の校正を行いました。
- ・教育センターでは「なばり学」の活用事例研究及び研修会を実施しました。

(3) 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進

- ・ESDの視点を取り入れた教育が各教科、総合的な学習の時間の中で行われ、生命尊重、人への思いやり、郷土愛を育む心を育てる取組が行われました。

(4) 読書活動・文化芸術活動の推進

- ・6月に子ども読書活動推進研修講座を実施し、54人の参加がありました。また9月には、司書教諭・図書館担当者・図書館ボランティア・学校司書を対象とした研修講座を実施し30人の参加がありました。
- ・図書館教育担当者会を3回開催し、読書活動の活性化に向けて各校の取組を交流しました。
- ・市立図書館と連携し、図書館流通センター(TRC)スタッフによる小学校訪問(各校年間2回ずつ)を実施しました。
- ・子ども読書活動推進研修講座を実施しました。(年間1回)
- ・司書教諭・図書館担当者・図書館ボランティア・学校司書を対象とした研修講座を実施しました。(年間1回)
- ・図書館教育担当者会を開催し、読書活動の活性化に向けて各校の取組を交流しました。(年間3回)
- ・名張市郷土資料館において、夏休み期間を中心に体験教室(火起こし、銅鏡づくり等の古代のモノづくり、古代人のコスプレ、本物の土器にタッチ、紙漉き)を実施しました。(参加者893人)オオサンショウウオの観察については開館日には希望に応じて随時実施しています。団体の来館時にはエサやり体験を5回開催しました。
- ・第2回子ども絵画展「ふるさと名張の風景自慢」を昨年度に引き続き開催しました。(応募点数223点)
- ・第2回ザリガニ釣り大会 & オオサンショウウオ観察会を昨年度に引き続き開催しました。(参加者50人)
- ・小学校等の見学の受入を19回、出張講座を40回開催しました。
- ・古典芸能の普及については、伝統文化の伝承や発展のために活動している子どもたちが集まり、『名張子ども伝統芸能祭り』において練習の成果を発表しました。〔出演:名張子ども狂言の会、名張こども能楽囃子教室、名張音頭保存会子どもの部、伝統文化こども舞踊教室の4団体〕
- また、<観阿弥創座の地>である小波田において、毎年11月の第1日曜日に開催される『観阿弥祭』にも、名張子ども狂言の会、名張こども能楽囃子教室が出演しました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1)人権・同和教育、道徳教育の推進

- ・児童生徒につけたい力を明確にし、発達段階に応じた学習内容を位置付けることができているか、各教科を通じた人権教育の取組が行われたか、人権カリキュラムの見直しを行いました。
- ・中学校区別の話し合いでは幼小中連携を図り、11年間をとおして育てたい子どもの像を共有し、実態交流を行いました。
- ・道徳教育においては、講演会や担当者会を実施し、「特別の教科 道徳」の実施に向けて取り組む具体的な内容の提示ができました。
- ・今後は、人権カリキュラムに基づき、子どもの実態に基づいた取組を行い、道徳教育を通して相手を思いやる心を育み、命を大切にし規範意識を持って行動できる子どもの育成をめざしていきます。

(2)ふるさと学習「なばり学」の推進

- ・学習資料集上巻を完成し、平成29年度末に市内全小学校1年生から4年生に配付しました。また、学習資料集の取得を希望する方には、有償で配付しております。
- ・学校ボランティアの専任コーディネーターが、授業支援のために各項目の授業プラン例及び映像コンテンツを作成し、教育センターの教育資料ポータルに掲載して教職員が活用できるようにしました。また、ふるさと学習「なばり学」の講師として協力いただける団体や個人のリストを作成、施設の利用体験学習を進めるためにスクールバスの活用等、環境整備を進めました。
- ・活動指標である地域行事への参加につきましては、年々実績値が減少し、進捗率が0%となっております。平成30年度より市内全小学校で学習資料集を活用して「なばり学」の試行を始め、地域の人との交流、地域に対する思いに触れることによって、地域行事等への児童生徒の参加を促進します。

(3)持続可能な開発のための教育(ESD)の推進

- ・ESDの取組が、各教科を通して行われ、地域と学校が連携を持ち、生命や人権を尊重し、公共心や規範意識を持ち、他人を思いやる心、郷土愛の心がより育つよう取り組んでいきます。

(4)読書活動・文化芸術活動の推進

- ・学校司書がすべての小中学校を巡回することで、学校図書館の運営・管理と教育活動の支援等を行うことができました。
- ・担任や司書教諭が行う授業において、本に関する専門知識を持った学校司書が支援することで、学習が深まり、読書の幅が広がるなどの成果が表れています。今後は、学校司書の活用を増やすためのより積極的な取組が必要です。
- ・絵本学研究所より講師を招き、「子どもたちと絵本の扉をひらく～子どもたちと共に豊かな創造性を育もう～」というテーマで研修講座を実施し、54人の参加がありました。子どもの年代(学年)における子どもの成長の特徴と、それぞれの年代で出会わせたい本について、お話をいただきました。絵本が、子どもたちの想像力・創造力を育むためにどれだけ重要か、学ぶことができました。
- ・各校の図書館教育担当者を対象に、参加者同士で本を紹介し合い、もっと読みたいと思う本を投票で決める「ビブリオバトル」の研修講座を実施しました。研修講座では、中学生を対象に講師の示範授業を実施し、その後、講義をいただきました。本研修を受け、「ビブリオバトル」を実施する学校も見られ、児童生徒の読書に対する興味関心を高める取組を推進してきました。家庭での読書量を増やすために、

ファミリー読書を保護者へ積極的に周知する取組も進めてきています。今後も、児童生徒の読書に関する興味関心を高める取組を進めます。

・活動指標の「平日、学校の授業時間以外に1日当たり30分以上の読書をしている児童生徒の割合」(中学生)が平成26年度の実績値を下回り進捗率が0%となりました。しかし、平成28年度と比較し、5.2ポイントの上昇がみられています。この要因として、学校司書が授業を支援する機会を増やす取組を続けてきたことが挙げられます。

・年3回、図書館教育担当者会を開催し、それぞれの学校での取組を交流しました。特に第3回の担当者会は、モデル校の取組を中心に資料をもとに交流することで、取組の進まない学校へのよい刺激になりました。今後、各校の担当者が図書館教育の推進役としての自覚をもち、より積極的に推進していけるよう担当者会を実施していく必要があります。

・名張市郷土資料館では、各事業に多くの皆様に参加をいただき、いずれも拡大傾向にあります。今後も創意工夫をし、また、関係機関やボランティア団体等の協力を得ながら事業を実施していきます。

・古典芸能の普及については、『名張子ども伝統芸能祭り』を毎年開催し、恒例的に出演することで、子どもたちは「専門的な文化会館の舞台で発表する」という目標を持ち、練習を重ねることで、古典芸能の普及を図ります。

・大人たちで構成する謡曲団体と共に『観阿弥祭』へ出演することで、伝統文化への意識の向上を高め、能楽振興にも努めます。

基本目標3 健やかな体の育成

担当室 学校教育室・教育センター・
市民スポーツ室・教育総務室
〔健康・子育て支援室〕

1. めざす姿

子どもは、自らの健康を適切に管理・改善するとともに、進んで運動に親しみ、たくましく生きるための健康と体を備えています。
また、保育所(園)・幼稚園・小中学校は関係機関と連携しながら、子どもの実態に応じた健康・食教育を推進しています。

2. 主な取組

- (1)健康教育の推進
- (2)体力向上に向けた取組の推進
- (3)食育の推進

3. 進捗状況

$$\text{進捗率} = (\text{H29実績値} - \text{H26現状値}) / (\text{H32目標値} - \text{H26現状値})$$

成果指標	現状値(H26)		H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
朝食を毎日食べていますかという質問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	85.3%	86.3%	87.7%				97.0%	20.5%
	中学生	85.3%	86.0%	84.3%				97.0%	0.0%

活動指標	現状値(H26)		H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
総合型地域スポーツクラブの設置数	2クラブ		3クラブ	4クラブ				7クラブ	40.0%
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による総合評価(5段階)がABCとなった児童生徒の割合【小5・中2】	小5	男子	70.7%	70.3%	75.2%			75.0%	100.0%
		女子	65.8%	73.4%	73.4%			75.0%	82.6%
	中2	男子	76.6%	74.0%	78.1%			80.0%	44.1%
		女子	88.9%	96.8%	89.5%			90.0%	54.5%

4. 取組内容(平成29年4月～平成30年3月)

(1)健康教育の推進

- ・名賀医師会、伊賀歯科医師会、伊賀薬剤師会と福祉子ども部、教育委員会、学校が連携し、学校保健の円滑な遂行及び向上を目的として、名張市立学校保健連絡協議会を開催しました(年間1回)
- ・健康教育の推進のため、学校からの要請に応じて、保健師を派遣し、性教育の授業を実施しました。(中学校5校13回、小学校1校1回)
- ・生活習慣病予防の一環として保健師が出前トークを行いました。(中学校1校1回、小学校3校3回)
- ・学校の要請に応じて、歯や口の健康を目的とする歯科衛生士による授業を実施しました。(小学校1校、3回)

・養護教諭を対象に、ネウボラの研修会を開催しました。(年間1回)

(2) 体力向上に向けた取組の推進

・市内小学3年生の児童、中学2年生の生徒を対象に新体カテストを実施し、その結果分析をもとに各学校にて体力推進計画を作成しそれに基づく教育活動を実施しました。名張市学力・体力調査活用検討委員会にて名張市全体の分析を行いました。

・保健体育代表者会において体力向上に向けて、中学校ブロックごとの取組指標を定め、各校で実践しました。(代表者会:年間4回)(取組例:「一校一実践」、「めあて」「ふりかえり」の明確な提示、「体を動かすことが好き、運動するのが好き」と思える授業づくり)

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、新体カテストの結果、学校の取組、運動の大切さや食事・睡眠等生活習慣の大切さについてを保護者啓発のため通信やホームページで発信しました。

・児童生徒の運動に対する興味関心を高めるため、各校が体力向上のために重点的に実践する「一校一実践」に取り組みました。

・体育科研修会、実技講習会を開催しました。(年間3回)

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、新体カテストなどの結果、学校の取組、運動の大切さや食事・睡眠等生活習慣の大切さについて学校通信やホームページ等で発信し、保護者啓発に取り組みました。

(3) 食育の推進

・食育担当者会を実施し、「つながる食育推進事業」の取組を発信しました。また、幼、保、認定こども園、小、中での食育の取組を、食に関する全体指導計画、年間指導計画を基に、子どもたちの食に関する状況、指導の現状の交流ができました。

・三重県産食材を活用した「みえ地物一番給食の日」を年間22回、名張産食材を活用した「バリっ子給食」を年間23回実施しました。

・給食献立に行事食を年間12回取り入れました。

・三重県教育委員会が文部科学省から受託した「つながる食育推進事業」のモデル校3校では、家庭や地域と連携し、給食を活用した食育の推進に取り組みました。

・食育の推進を主題として「教育フォーラムinなばり」を開催しました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1) 健康教育の推進

・朝食摂取率は、平成28年度に比べ中学生は低下したものの、小学生では向上しました。児童生徒の食への意識を向上させ、安定的に朝食摂取率を上げるため、積極的に学校での取組を充実させ、保護者への啓発を行っていきます。

・福祉子ども部の保健師と小中学校との連絡会(学校保健委員会)を充実し、保健教育をさらに推進していくため、学校に積極的に働きかけていきます。

(2) 体力向上に向けた取組の推進

・平成28年度は小中学校ともに男子の全国体力・運動能力、運動習慣等調査による総合評価の割合についての進捗率が0%でしたが、平成29年度はともに改善されました。中学校ブロック別の小中9年間の系統的な取組を実施した成果が見られます。引き続き取り組むとともに、体力向上に向けた小中の連携を小中一貫教育へとつなげます。

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査による総合評価がABCとなった男子児童生徒の割合の改善にみられる成果をもとに、今後も「体を動かすことが好き、運動するのが好き」と思える授業づくりや、「めあて」と「ふりかえり」の明確な提示等による、効果のある運動を促進する授業改善を進めます。

・小中一貫教育を見据えた「中学校ブロック別体力向上の取組」により、9年間の系統的な取り組みを今後も継続的に進めることで体力の向上を促進していきます。

(3) 食育の推進

・食育は、年間指導計画を基に年齢に応じた学習が定着してきています。特に、体験学習を通じた、食育の取組が子どもの食への関心を高める機会になっています。今後は、子ども自身が自分の食生活を振り返り、食と健康を意識し食を大切にできる力を育み、家庭への発信も強化できるよう取り組んでいきます。

・学校給食に三重県産食材を51.95%、名産産食材を27.19%使用しました。引き続き、納入業者・生産者と調整を図り「みえ地物一番給食」「バリっ子給食」を推進します。

・「つながる食育推進事業」に取り組むことで、学校や地域において食育の広まりが感じられました。今後、モデル校での取組を市内全小中学校及び関係機関に周知します。

・「教育フォーラムinなばり」では、幼児期からの食の大切さや学校給食の歴史、地産池消の取組等、多くの来場者に食育に関する情報を提供することができました。今後も、機会をとらえて食育の推進のため、保護者・地域の皆様へ積極的に情報提供を行います。

基本目標4 活力ある学校づくり

担当室 教育センター・学校教育室
文化生涯学習室

1. めざす姿

教職員は、研修によって質の高い授業力・指導力を身に付け、互いに学び合い、いきいきと子どもの教育に当たっています。また、子どもや保護者との間に深い信頼関係を築いています。
学校は、学校運営や教育活動について家庭・地域に積極的に情報発信し、保護者や地域住民は、いつでも学校や子どもの様子を知ることができます。
学校と家庭、地域は、学校の強み、弱みを共有し、一丸となって、課題の解消に努めています。

2. 主な取組

- (1) 教職員が働きやすい環境づくり
- (2) 学校の組織力の向上
- (3) 教職員の指導力の向上

3. 進捗状況

進捗率 = (H29実績値 - H26現状値) / (H32目標値 - H26現状値)

成果指標	現状値(H26)	H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
教育センターで開催した研修講座のアンケートで「A(満足できる)、B(どちらかという満足)、C(どちらかという不満)、D(不満)」のうち、「A(満足している)」と回答した参加者の割合	74.8%	74.8%	67.6%				81.0%	0.0%

活動指標	現状値(H26)	H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
学校生活支援ボランティアの登録者数	573人	702人	771				630人	100.0%
教職員の年次有給休暇の1人当たりの年間取得日数	10日	10.7日	10.0日				15日	0.0%

4. 取組内容(平成29年4月～平成30年3月)

(1) 教職員が働きやすい環境づくり

- ・相談業務を行う関係機関で集まり、情報交換・共有を行う相談機関打合せ会を実施しました(年12回)。
- ・学校現場と教育委員会それぞれが協働して業務の適正化を進めるよう周知しました。
- ・教育委員会で削減している会議や調査、配布物の精選について見える化に努めました。
- ・校務支援につながる情報教育環境の整備や指導要録の電子化等について検討しました。
- ・名張市職員安全衛生委員会の学校部会での話し合いの内容についての「たより」を発行し、学校での取組を支援しました。
- ・働き方改革について、個々の教職員の意識改革を一層進めるよう促しました。
- ・現時点で市が進めている小中一貫教育、コミュニティ・スクールの推進は、思い切った行事の精選や働き方を見つめるチャンスであることを踏まえ、行事の精選を進めました。
- ・学校現場における受動喫煙防止対策を維持するとともに、敷地内禁煙実現を目指しました。

(2)学校の組織力の向上

- ・教育センターの実施する研修講座については、各研修講座ごとにアンケートを実施し、教職員が求める研修講座や講師について把握し、新たな講座を新設しました。
- ・地域のボランティアの方々が学校を支援する取組み学校支援地域本部事業を引き続き、市内全小中学校において実施しました。
- ・学校支援地域本部事業の推進及び名張版コミュニティ・スクールの推進に向けて、チーフコーディネーターによる学校訪問を実施し、進捗状況や課題等の把握に努めました。(年3回)

(3)教職員の指導力の向上

- ・国の動向や喫緊の課題に対応した研修講座を実施しました。(道徳教育、外国語活動、小中一貫教育)
- ・教職員の授業改善を促進するため、市の学校教育研究推進校3校1園の他に学校長の要請に応じて指導主事が学校を訪問し、指導助言を行いました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1)教職員が働きやすい環境づくり

- ・各学校の学校安全推進委員会の実施回数が、平成28年度平均2.2回に対して、平成29年度は、見込みを含めて、平均2.6回となり、各校において職員の働き方について検討する機会が増えました。
- ・市教育委員会主催の担当者会(道徳教育担当者会、教育課程検討委員会、食育担当者会、外国語活動担当者会、情報教育担当者会など)の実施回数の適正を図りました。
- ・時間外勤務の平均については、本年度、小中学校において、5月・7月・8月・9月を除いた月において、昨年度より減少しました。
- ・今後も引き続いて、学校と教育委員会が協働して業務の適正化を進める必要があります。
- ・県費負担教職員も市職員も人事評価制度を進める中で、働き方についても管理職とともにPDCAを意識しさらなる改善に努めていく必要があります。
- ・軌道にのってきた学校の安全衛生委員会を機能させさらに実効あるものにしていく必要があります。
- ・学校生活支援ボランティアの登録者も年々増加しており、各学校において様々な支援活動が行われています。今後も教職員が子どもと向き合える時間を確保するために、学校の様々な場面でボランティアによる支援が行われるよう取り組んでいきます。

(2)学校の組織力の向上

- ・一部の職員の意識が変わることでその学校の働き方全体が変わることがあることも踏まえ、中長期的な計画のもとに業務を遂行できるよう、管理職やベテラン教職員がアドバイスするなどし、個々の教職員の意識改革を一層進める必要があります。
- ・学校生活支援ボランティアの新規登録者が年々増加し、多種多様なサポートが実現しています。ボランティアサロンや養成講座を継続実施し、さらなる登録者の拡大とボランティアの資質向上をめざします。

(3)教職員の指導力の向上

・研修講座のアンケートでは、「A(満足できる)」、「B(どちらかという満足)」を合わせた割合は、97%以上であり、高い満足度を得ているものの、「A(満足している)」と回答した参加者の割合は平成28年度と比較して、7.2ポイント減少しています。講座内容が難しく、講座全体を通して講義調で、参加者のニーズに合わなかった講座もあったことが、満足度を大きく下げる原因となったと考えられます。あらかじめ講座内容を把握することは大変難しいことですが、研修講座計画を構築する時点で、できる限りの情報を集め、講師との事前打ち合わせ等を工夫する必要があります。今後も引き続き、国の動向や教職員が求める研修講座を実施することで、研修講座のアンケート「A(満足している)」の割合の向上をめざします。

・教育委員会が指定する学校教育研究推進校3校1園のうち、平成29年度は2校が研究の成果を発表しました。研究テーマは、喫緊の市の教育課題であり、研究に取り組むことにより学校内の教職員の授業改善・指導力向上等の成果が表れています。

基本目標5 安全で安心な教育環境の整備

担当室 教育総務室・学校教育室
教育センター・文化生涯学習室

1. めざす姿

子どもは、地域に見守られ、安全に登校し、整備された学校施設の中で、快適に学校生活を送っています。
また、居心地のよい学校、学級づくりが行われ、子どもは安心して、いきいきと楽しく学校生活を送っています。
学校、家庭、地域が連携、協働し、地域全体で学校を支える環境が整備され、子どもは、地域の中で健やかに成長しています。

2. 主な取組

- (1) 子どもの安全・安心の確保
- (2) いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり
- (3) 居心地の良い集団づくり
- (4) 学校の規模・配置の適正化の推進

3. 進捗状況

進捗率 = (H29実績値 - H26現状値) / (H32目標値 - H26現状値)

成果指標	現状値(H26)	H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
小中学校の教育環境に満足している市民の割合 ※市民意識調査より	59.3%	56.2%	62.4%				68.0%	35.6%

活動指標	現状値(H26)	H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
学級満足度調査による満足群にいる児童生徒の割合	64.4%	67.0%	67.8%				67.0%	100.0%
小中学校の老朽施設(棟)の整備数(延べ値)	18施設	21施設	21施設				28施設	30.0%

4. 取組内容(平成29年4月～平成30年3月)

(1) 子どもの安全・安心の確保

- ・市内の学校施設の耐震化につきましては、すべて完了いたしました。引き続き教育環境の向上に向けた学校施設の整備を進めております。本年度は、小中学校の教室に空調設備を設置に向けた設計事務に着手しました。
- ・地域・学校・警察・市民団体等で構成する「名張少年サポートふれあい隊(146人 10班体制)」を組織し、夜間や祭礼時のパトロール活動・有害環境浄化活動等に取り組みました。また、青少年補導センターと合同で不審者対策を目的としたパトロールを実施しました。(夜間・祭礼時等のパトロールに年間延べ929人の参加。有害環境一掃大作戦70人参加 53店舗巡回)
- ・青少年補導センターによる街頭補導や、安全パトロール、下校支援、青少年悩み相談等を行いました。
- ・子どもを守る家の普及による不審者対策に取り組みました。(協力者件数 1,906件)
- ・市内小中学校・高校や警察をはじめとする関係機関が集まり、青少年の非行や問題行動等についての情報交換・共有を行う校外生活指導協議会を実施しました。(年6回)
- ・相談業務を行う関係機関で集まり、情報交換・共有を行う打合せ会を実施しました。(年12回)

(2)いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり (3)居心地の良い集団づくり

- ・「いじめ防止対策推進法」「名張市いじめ防止基本方針」に基づき、市内小中学校では、「学校いじめ防止基本方針」を改定し、いじめの未然防止、早期発見、迅速、適切な対応に務めました。
- ・適応指導教室では、子どもの実態と課題に沿った小集団を中心とした体験学習や活動を通して、通級生との心理的発達や自立を援助するとともに、心の居場所・絆づくりの場となり、意欲や自信が高められ、自己有用感を感じることができる取組を実施しました。
- ・教育センターに「よろず相談」として、教育専門相談員や臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する臨床心理士等により、教育相談体制の充実を図りました。
- ・学校と関係機関をつなぐ専門家として、スクール・ソーシャル・ワーカーが、学校だけで解決することが困難な課題に対して、指導助言を行いました。また、定期的に学校を巡回し、管理職との面談により、学校経営に関する支援を行いました。
- ・教育相談担当者会議を開催しました。(年間3回)
- ・学級満足度調査(Q-U調査)を市内全小中学校全児童生徒で実施しました。(年間2回)
- ・学級満足度調査活用検討委員会を開催しました。(年間2回)
- ・生徒指導推進委員会を開催しました。(年間7回)
- ・外部講師を招聘しての教職員対象の研修会を実施するとともに各学校の取組について意見交流しました。(年間3回)
- ・名張市要保護児童対策及びDV対策協議会事務担当者会議に参加し、情報交換、情報共有を行いました。(年間4回)
- ・支援が必要な子どもや家庭に対して、関係機関等と連携してケース会議を開催し、適切な支援等について協議しました。また、学校関係者と関係機関による情報交換や打合せを必要に応じて実施しました。
- ・適応指導教室相談員が学校を訪問し、情報交換及び個々の事例の検討を行い、連携を深めました。
- ・国や県の事業を受けて、年次ごとに段階を経て市内小中学校にスクールカウンセラーを配置(全小中学校)し、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう支援体制の充実を図りました。

(4)学校の規模・配置の適正化の推進

- ・教育の質の向上、教育の機会均等や教育水準の確保を目的に進めております学校の規模・配置の適正化につきましては、「名張市小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画(案)」の見直しを8月に行い、保護者や地域の皆様に説明する機会をもちました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1)子どもの安全・安心の確保

- ・老朽施設の整備については、「(仮称)名張市学校施設長寿命化計画」を策定し、計画的に進めていく必要があります。
- ・平成30年度から平成32年度の3カ年間の予定で全ての小中学校の普通教室及び特別教室(図書室・音楽室・PC教室・理科室)へ空調設備を整備していきます。
- ・青少年の非行件数は減少傾向にありますが、不審者情報の増加や全国的に青少年が巻き込まれる事件が発生しているなかで、子どもたちを見守る体制を強化していく必要があります。地域ぐるみで子

子どもを守る取組として、子どもを守る家事業の普及による不審者対策や、「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を引き続き行い、地域ぐるみで子どもを非行や犯罪から守る体制の充実・強化に努めます。また、ふれあい隊や青少年補導センター、警察、学校等の関係機関・団体間との情報共有を密にし、不審者情報への迅速な対応や連携の強化を図り、子どもたちの安心安全の確保に取り組めます。

・校外生活指導協議会や相談機関打合せ会といった、子どもたちに関わる関係機関が一同に会し、情報の共有や交換を行うことで、問題行動や非行に至る背景を探り、その対応に生かすことができています。

(2)いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり (3)居心地の良い集団作り

・適応指導教室と学校との情報共有や支援の方針の一致を図ることで、学校において安心できる環境をつくる取組が増えました。また卒業生を含めた学校復帰できる児童生徒が増加しました。

・教育よろず相談では、様々な知識を備えた教育専門員や臨床心理士による相談体制を構築し、メンタルヘルスケアを受けやすい環境を整えることができました。

・学級満足度調査による満足群に位置する児童生徒の割合が年々上がってきています。調査結果を検証することにより、学校の「めざす児童生徒像」実現に向けた取組の評価とその改善に生かすことができました。また、学級経営をはじめとする集団づくりの指導の工夫と改善やいじめ等の問題行動や不登校の未然防止・早期発見・早期対応にも生かすことができました。しかし、不登校児童生徒は全国水準よりかなり少ないものの、小学校低学年からの不適応、家庭環境等の背景から不適応等や長期欠席者の増加等の新たな課題も出てきています。

・「居心地のよい学級集団」づくりから「学びに向かう集団」「学び合う集団」づくりへの取組を今後も継続して進めていく必要があります。

・各学校での学級間、学年間の取組の差をなくし、学校体制(学校ぐるみ)による取組をさらに推進できるよう、教職員間の意思統一をし、情報共有を図っていきます。

・不登校の児童の減少やいじめ防止をめざした取組として、すべての子どもを対象とした「わかる授業づくり」(授業改善)や豊かな人間関係の構築等の「集団づくり」、教育相談の充実などの取組により、未然防止、早期発見、早期対応を図ります。

・学校だけでなく保護者や地域との連携、協働及び関係機関との連携を図るとともに、中学校区での小中連携、小小連携をより一層深め、小中一貫教育に向けた取組を進めるため、小中一貫教育リーフレット「名張市がめざすコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」を作成し、全家庭、全教職員に配付しました。

・スクールカウンセラーの有効活用について、小中学校間の接続をスムーズにするとともに、生徒指導体制及び教育相談体制の充実を図るために、中学校区内の全ての小中学校に同一のスクールカウンセラーを配置することができました。兄弟姉妹でカウンセリングをするなど、家庭への支援をより効果的に進めることもできました。

・ケース会議、よろず相談については、エリアディレクターが事前調整を図ることで、より精度をあげ組織的に対応することができました。

・多様化、深刻化するケースに対して、学校と関係機関をつなぐ専門家として、スクール・ソーシャル・ワーカーの配置拡充のための財源確保が必要です。

(4)学校の規模・配置の適正化の推進

・学校の規模・配置の適正化につきましては、保護者や地域の皆様をはじめ、関係する皆様に引き続きその必要性を丁寧に説明し、ご理解をいただけるよう取り組んでまいります。

基本目標6 家庭・地域との協働の推進

担当室 文化生涯学習室・教育センター
市民スポーツ室・学校教育室

1. めざす姿

保護者の子育てに対する不安や悩みに関する相談体制が整備されるとともに、「家庭における子育ては地域全体で応援していこう」という市民の意識が高まり、安心して子どもを産み、育てる環境が整っています。また、子どもは、温かい家庭において生まれ、望ましい生活習慣や規範意識を身に付けています。

2. 主な取組

- (1) 家庭の教育力の向上
- (2) 地域の教育力の向上

3. 進捗状況

進捗率 = (H29実績値 - H26現状値) / (H32目標値 - H26現状値)

成果指標	現状値(H26)	H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
目的をもって生涯学習に取り組んでいる市民の割合 ※市民意識調査より	44.5%	45.1%	42.5%				47.0%	0.0%

活動指標	現状値(H26)	H28	H29実績値	H30	H31	H32	H32目標値	進捗率
学校生活支援ボランティアの登録者数	573人	702人	771人				630人	100%
名張Kidsサポータークラブの登録者数	39人	62人	59人				60人	95.2%

4. 取組内容(平成29年4月～平成30年3月)

(1) 家庭の教育力の向上

- ・「子育て支援研修会」として特別支援教育士を講師にテーマ別3回の研修会を実施しました。(参加者144人)
- ・「家庭教育講座」(5回連続講座)を実施し、講話を聞いて学ぶだけでなく、グループ別に受講者の思いや悩みを出し合える場も設定しました。(参加者131人)
- ・家庭教育を地域に広げるために、地域の子育てサロンに参加し啓発を行いました。(4回)

(2) 地域の教育力の向上

- ・ボランティア研修会を実施しました。(参加者71人)また、毎月第1木曜日にボランティア・サロンや出前サロンを実施し情報交換を行いました。
- ・ボランティアコーディネーター養成研修会を実施し、地域コーディネーターの人材発掘支援に取り組みました。(参加者93人)

- ・各地域の市民センターが生涯学習の場として役割を果たせるよう生涯学習リーダーをはじめ、市民センター職員対象に研修会を実施。職員のスキルアップにつとめました。また、「名張市の地域における生涯学習推進に関する指針」に基づき、関係機関等と連携し、地域の市民センターで家庭教育講座を85講座開設しました。
- ・地域のボランティアの方々が学校を支援する取組、学校支援地域本部事業を引き続き、市内全小中学校において実施しました。
- ・学校生活支援ボランティア研修講座を実施しました。(57人参加)
- ・学校支援地域本部の地域コーディネーターの養成研修会を実施しました。(93人参加)
- ・学校生活支援ボランティアを対象としたボランティアサロンを実施しました。(12回 延べ77人参加)
- ・地域づくり組織による放課後子ども教室を実施しました。(6教室8小学校区)
- ・ジュニアリーダー養成講座を実施しました。(2回 17人参加)
- ・ジュニアリーダー養成講座を修了した子どもたちの多くが所属し、活動するKidsサポータークラブへの支援しました。
- ・Kidsサポータークラブのジュニアリーダーたちの技術向上のための研修会を実施し、継続して活動を行えるよう支援しました。(2回 19人参加)

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1) 家庭の教育力の向上

- ・教育センターで実施している教育相談の保護者からの相談件数は420件(来所による相談65件、電話による相談103件、臨床心理士への相談252件)と前年度の344件と比較し急増しております。今後も教育相談により保護者への支援を継続していきます。
- ・「子育て支援研修会」への参加者は3回開催延べ144人、「家庭教育講座」への参加者は5回開催延べ131人であり、継続して受講する保護者が増えてきました。今後、「家庭教育講座」は、より多くの保護者が参加できるよう、地域の子育てサロンへの積極的な参加や、市民センター等での開催へと広げていく必要があります。

(2) 地域の教育力の向上

- ・学校支援地域本部事業は市内全小中学校において実施されました。保護者や地域のボランティアが学校を支援する体制ができています。
- ・これまでの学校支援地域本部事業の取組をコミュニティ・スクール推進のための組織として発展させていけるよう、保護者・地域と学校との連携・協働を支援していく必要があります。
- ・教育センターにおいて、引き続き地域人材の発掘や育成のために研修会を開催し、支援活動を行う方同士の情報交換や交流の場を設けます。また、学校支援地域本部事業を基に、地域学校協働活動が行えるよう地域コーディネーターの養成や体制づくりに取り組んでいきます。
- ・放課後子ども教室実施の推進については、地域づくり組織へ事業の説明を行うことで、未実施の学校区において新規教室が開設できるよう取り組んでいきます。
- ・ジュニアリーダーについては、青少年がボランティア活動を通して社会に参加し、様々な体験のなかで成長できる機会となっています。ジュニアリーダー養成講座修了者の多くが所属し、活動している「名張

Kidsサポータークラブ」の入会者は増加しています。今後は、「名張Kidsサポータークラブ」がボランティア団体として、継続的に活動ができるように活動機会の提供や、資質向上を目的とした研修会を実施するなどの支援を行います。

名張市教育振興基本計画
第二次名張市子ども教育ビジョン
平成29年度進捗状況報告書

平成30年 月
名張市教育委員会